

2022年度 事業計画

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

伝統のかおり高い学園を目指して

学校法人 修道学園

2022年度 学校法人修道学園事業計画

<法人本部>

主要項目	具体策	所管部局	実施月
1 法人運営の充実	(1)法人としてのガバナンス体制等の強化 ・法人本部組織体制等の更なる充実 ・BCP(事業継続計画)の充実(感染症対応等を含める) ・危機管理体制等の整備・充実	法人事務局	年間
	(2)積極的な情報発信、情報公開の推進 ・各種メディアを活用した積極的な情報発信 ・インターネット等の活用による情報公開 ・関係法令に基づく諸資料の公表、公開	法人事務局	年間
	(3)三様監査の充実 ・監査法人との緻密な連携	法人事務局	年間
	(4)設置学校に係る関係所轄庁等への対応 ・大学の学科改組等による新学科開設の準備対応 ・学則改正等関係所轄庁等への諸手続き	法人事務局	年間
	(5)人事、給与等処遇に係る基本的事項の整備 ・中高部、協創中高部の65歳定年制実施等の具体策の策定 ・「働き方改革」に向けた具体的対応策の検討	法人事務局	年間
2 資産の運用	(1)既定の基本方針、中期資金運用計画変更等に基づく資金運用の継続(資産分散したポートフォリオの継続形成) (2)法人として統合した資産運用の実施(資金運用委員会)	法人財務課	年間
3 施設の整備	(1)大学部一体育館の建替計画等の実施 (基本設計の完了及び実施設計の着手・完了) (2)中高部一本館の建替事業等の継続	法人財務課	年間
4 将来構想の策定	(1)学園将来構想の策定 ・学園全体の将来構想の策定 ・各設置学校の中・長期計画との調整	法人事務局	年間
5 その他	(1)学園創始300年に向けて ・学園300年史編纂の継続と諸事業の準備 (2)恒常的な寄付金の募集	法人事務局	年間

2022年度 学校法人修道学園事業計画
 < 広島修道大学 >

区分 (中期事業計画)	主要項目	具 体 策	所管 部局	実施月
I. 教育と学生支援の充実				
1.教育の充実と 質保証	1) 教学マネジメントの強化	① 学部間・グループ間の教学マネジメントに関する情報共有の機会提供を行う。 ② 「学修成果の可視化」について、以下に対応する。 A. カリキュラムマップ・カリキュラムツリーを検討・構築する。 B. 学修ポートフォリオを整備する。 C. アセスメントプランを策定する。 D. GPA制度の見直し案を作成する。 E. 学習成果の評価方法を整備する。	教学C	3月
	2) カリキュラム改正	① 全学的科目(修道スタンダード・グローバル・共通教育)及び学部カリキュラムを検討・策定する。 ② 策定したカリキュラムに基づき、関連規程等を改正する。	教学C キャリアC 情報C 国際C 学習支援C 各学部	10月
			11月	
	3) 学習支援体制のあり方の検討	① 新カリキュラムにおける修道スタンダード科目の「修大基礎講座」について検討する。 ② 現状の学習支援体制の検証と全学的支援体制の再構築について検討する。	学習支援C	3月 3月
	4) ICT教育の整備	① 他大学調査等を行い、授業計画、内容及びその教材(コンテンツ)を作成する。	情報C	12月
	5) リカレント教育の検討	① リカレント教育について方針を策定し、方針に従い具体的な検討に入る。	学長室 教学C	3月
	6) 全学的FDのあり方についての検討	① 現在、個別に実施されている各学部のFD研修の有機的体系化を検討する。	総務部	3月
2. キャリア教育の充実	7) 学生の学習行動、学修成果の把握	① 継続的に情報を取得し、IR分析を実施する。	教学C 学生C 学長室	3月
	1) 全学的キャリア教育・学生支援体制の構築	① 全学的キャリア教育と学生支援体制のあり方を検討する。	キャリアC 教学C	3月
3. グローバル教育の充実	1) 海外派遣支援制度の見直し	① 新制度(ワールド・ステージ・プログラム)を制定する。 ② 新制度(ワールド・ステージ・プログラム)のスカラシップ規程を制定する。	国際C	10月
	2) 留学生受け入れの検討	① 私費留学生の受け入れ(入学者数)増加を目指し、大学全体の方針並びに入試制度について検討する。 ② 本学と外部団体就職用ポータルサイト併用による、私費留学生の就職活動支援方法を検討する。	国際C キャリアC 入学C	3月
4. 学生生活支援	1) 障がい学生支援への対応	① 「合理的配慮の提供義務化」への対応として、障がい学生支援の受け入れ基準を検討、策定する。	学生C	3月
	2) 課外活動支援と活性化への検討・実施	① UNIVASへの対応として、指導者研修会を実施する。 ② 学生のスポーツ・文化活動を通じた地域連携・社会貢献活動として、UNIVASと関連した事業を実施する。	学生C	3月
	3) 学習環境の充実	① 法務研修生制度の終了に伴い、関連する7号館3階・4階の改修を行う。	財務部 教学C	9月

2022年度 学校法人修道学園事業計画
 < 広島修道大学 >

区分 (中期事業計画)	主要項目	具 体 策	所管 部 局	実施月
	4)高等教育修学支援新制度への対応	①高等教育修学支援新制度対象大学要件を確認し、認定のための管理・対応をする。 ②学生の授業料等減免申請の大学事務手続き・体制を検討し、運用する。	学生C 教学C 総務部 財務部 学生C 財務部	9月 3月
	5)就職支援体制の強化	①企業採用動向変更に対応したガイダンス、各種セミナーを検討し、実施する。	キャリアC	3月
II. 研究活動の推進				
1.研究活動推進・支援	1)研究活動推進・支援	①研究倫理教育及びコンプライアンス教育の内容の見直しを行う。	ひろみらC	3月
2.産学官連携リスクマネジメント	1)産学官連携リスクマネジメント体制の検討と構築	①産学官連携に従事する人材育成のため、研修会への参加及び情報共有を行う。	ひろみらC	3月
III. 地域連携・地域貢献				
1.地域連携・地域貢献の推進	1)地域連携・地域貢献の推進	①連携協定先との協働事業(公開講座、ひろみら地域協創スタジオ)実現に向け、協定内容に基づいた協働推進の情宣活動を行う。 ②災害ボランティアリーダー養成講習会について内容を検証・改善し、実施する。	ひろみらC	3月 3月
2.産学官連携の推進	1)産学官連携事業の推進	①ひろみらシンクタンク事業推進のため、学内外において事業の情宣活動を行う。	ひろみらC	3月
IV. 入試制度の整備と志願者の獲得				
1.入試制度の改革	1)新入試制度の導入	①2024年度(2023年度実施)新入試制度導入に対応し、円滑な実施に向けた準備と、高校生、保護者に対するPRを行う。 ②新学習指導要領に対応した出題科目と出題範囲の検討に着手する。	入学C	3月
2.志願者の獲得	1)各種イベントの実施と検証	①オープンキャンパスを始めた学生募集活動について、適正な形式により実施する。 ②実施した学生募集活動について、来場者アンケートにより効果を検証する。	入学C 各学部 各研究科	12月
	2)情報発信力の強化	①効果的な情報発信のため、WEBプロモーションを実施する。 ②各種広報・広告媒体(入試情報サイト、LINE公式アカウント、WEB広告等)について、改善・充実に努める。 ③接触者分析と各広告媒体の費用対効果の検証を行う。	入学C 各学部 各研究科	3月
	3)高大連携・接続の強化	①附属協創高校との連携・接続を強化する。	入学C	3月
V. 大学組織・運営の強化				
1.組織改革・改善	1)学部学科改組対応	①新学科設置の届出・認可申請に対応する。	学長室	3月
	2)大学院改革の検討	①大学院のあり方についての方針と計画案を作成する。 ②大学院定員未充足への対応案を検討し、実施する。	学長室 各研究科 教学C	3月
	3)事務組織の改組	①部局間業務内容・量を検証し、人員配置の見直しを行う。	総務部	3月

2022年度 学校法人修道学園事業計画
 < 広島修道大学 >

区分 (中期事業計画)	主要項目	具 体 策	所管 部局	実施月	
	4)新教学システムの稼働と運用検証	①システム環境作成、データ移行について、それらの検証を含め完了する。 ②各業務運用テストを完了する。 ③2023年4月稼働に向けた次年度環境の作成及び確認を全て完了し、本番稼働に切り替える。	教学C 各部局	6月 9月 3月	
	5)旅費システムの安定稼働	①4月から稼働する旅費システムのユーザーサポート体制を整える。	総務部	10月	
	6)広島修道大学シングルサインオンシステムの更新	①広島修道大学シングルサインオンシステム(略称SSOシステム)を更新する。あわせて、Moodleサーバを移設する。	情報C	2月	
	7)機関リポジトリの管理運営	①JAIRO Cloud(WEKO3)へ円滑に移行し運用する。	図書館	3月	
	8)デジタルアーカイブのコンテンツ充実	①所蔵資料を計画的にデジタル化し公開する。	図書館	3月	
	9)給与制度の見直し	①定期昇給時期を統一するため、俸給表の4分割化等を検討する。 ②大学院手当の支給形式を再検討する。	総務部	3月 3月	
	10)SD等研修制度の見直し	①現在実施しているSD研修計画を精査し、職員のキャリアパスを検討する。 ②職員自主研修の抜本的見直しを行う。	総務部	3月 3月	
	2.設備・財政基盤の強化	1)新体育館建設にともなう寄附募集	①趣意書を作成し、新寄附サイトを構築する。 ②目標金額に向け寄附募集活動を強化する。	総務部	7月 3月
		2)新体育館等の建設	①新体育館にかかる基本設計・実施設計を終え、施工業者の選定に入る。 ②テニスコート等の移設にかかる基本設計・実施設計を実施し、工事を実施する。	財務部	3月
		3)既存施設・設備等計画営繕工事及び校舎等建替計画の検証と見直し	①2022、2023年度で校舎、インフラ等の校舎以外の施設も含めた施設設備更新・改修計画を策定する。 ②新体育館建設後の校舎等建替計画を検証し、見直しを検討する。	財務部	3月
3.外部機関との連携強化	1)同窓会等との連携強化	①同窓会、後援会と連携を強化する。	総務部 教学C ひろみらC キャリアC 学長室	3月	
	2)各種団体等との連携強化	①自治体、企業、各種団体等と連携を推進する。		3月	
	3)教育ネットワーク中国、他大学等との連携強化	①教育ネットワーク中国及び他大学等との連携を推進する。		3月	
VI.危機管理・広報の強化					
1.危機管理の強化	1)災害時対応の体制強化	①広島修道大学事業計画(BCP)第1版を改良する。	財務部 各部局	3月	
	2)ハラスメント防止の強化	①全教職員に対しe-learningによるハラスメント防止研修を実施する。(学生への研修動画公開) ②ハラスメント防止関連規程及びガイドラインの見直しを行う。	総務部	3月	

2022年度 学校法人修道学園事業計画
 < 広島修道大学 >

区分 (中期事業計画)	主要項目	具体策	所管 部局	実施月
2.広報・広告の強化	1)WEBサイトによる情報発信の強化	①大学WEBサイトのコンテンツ拡充	学長室	3月
	2)広報・広告事業の検証と見直し	①学長室、入学センター、法人等における広報・広告事業について、検証・見直しを行う。 ②マスコミとの連携を強化をする。	学長室 入学C	3月
3.記念事業の実施	1)人間環境学部20周年事業の実施	①学部20周年事業を計画通り実施する。	人間環境学部	12月
	2)人文学部50周年事業の検討	①学部50周年事業について検討する。	人文学部	3月
4.新型コロナウイルス感染対策	1)感染拡大防止	①新型コロナウイルス感染症の拡大防止について、適宜対応する。	学長室 各部局	3月
VII.内部質保証				
1.内部質保証の整備と強化	1)内部質保証の体制強化	①IRシステムと新教学システムの次年度からの連携に向け準備を行い、IRを基に内部質保証体制を強化する。	学長室 教学C	3月
	2)IRの推進・強化	①教育成果指標を検討・整備し、情報を取得する。	学長室 教学C 学生C キャリアC	3月
	3)第3期認証評価改善報告対応	①認証評価改善報告書へ対応する。 ②教員組織の適切性に向け、計画・管理を行う。	学長室 各学部 各研究科	7月 3月

2022年度 学校法人修道学園事業計画
 <修道中学校・修道高等学校>

【教員の部】

主要項目	具体策	所管部署	実施月
I. 学力の向上	1. 大学進学実績の向上		
	①2021年度に校長が実施した「未来皆議」の報告書の提言をもとに、各教科の授業改善等の課題を協議して、進学実績向上のための施策を構築していく。	中高両教頭・教頭補佐	通年
	②数値目標の達成に必要な各部署の課題を明確化し、定期的にその解決の状況を確認する。	中高両教頭・教頭補佐	通年
	③東大20名以上合格を数値目標とすることが修道教育に実効性を持つよう、志望者の増加に向け、生徒に対する進学指導、模擬試験対策、進学情報提供を強化する。また、生徒に対する早期からの働きかけを更に進める。	進路部・教務部	通年
	2. 学力観の見直し		
	①4年の学年団および担当者と連携を取りながら今年度より実施が始まる「総合的な探究の時間」を軌道に乗せていく。	教務部	通年
	②2022年度からの高校新カリキュラムと2025年度以降の大学入試との関連性について調査研究を行う。特に「情報Ⅰ」の動向に注視していく。	教務部	通年
	③新しい学びを推進するための研究を引き続き行い、生徒ひとり一台、一接続の運用に注力し、思考力、判断力、表現力など、生徒の非認知的能力を伸張させる取り組みを行う。	中学教頭・教務部	通年
	④修道ベーシック・ルーブリックを教育活動の柱とし、教職員、生徒、保護者への周知徹底をはかる。また、新学習指導要領の観点別評価に反映させるための教科別ルーブリックの研究を進める。	中学教頭・教務部	通年
	3. 学習意欲の向上		
①1・2年のセミナー合宿を実施する。	進路部・担当学年	8月	
②4年の東大見学ツアーを実施する。	進路部・担当学年	8月	
③5年の東大・京大セミナーを実施する。	進路部・担当学年	8月	
④中級からの成績優秀者を顕彰する。	進路部・担当学年	8月	
⑤2025年度以降の入試を見据えて、6年のコース別クラス編成等の授業の設定を検討する。	進路部・教務部・担当学年	通年	

主要項目	具体策	所管部署	実施月
II. 国際理解教育の充実	1. 関連行事の実施		
	①修道ベーシック・ループリックを取り入れたフューチャー・リーダーズ・プログラム(以下FLP)を実施する。	育成部・高校教頭	11月
	②FLPが全校的な取り組みとなるよう、具体的な検討を進める。	育成部・高校教頭	通年
	③コロナ禍の中、さらにコロナが終息した後の国際理解教育のあり方を検討する。	育成部・高校教頭	通年
III. 倫理観の向上	1. 規範意識や倫理観の育成		
	①修道ベーシック・ループリックの「価値観」をもとに生徒が持つべき規範意識や倫理観を明確にする。	生徒部	通年
	②遅刻指導、ICT機器の利用におけるリテラシー指導を通して「自己の信念を貫き通そうとする姿勢」の向上を養う。	生徒部	通年
	③交通安全に対する意識の向上、公共交通機関利用時や自転車乗車時のマナーの向上を通して「自分の言動を客観的に見ようとする姿勢」を養う。	生徒部	通年
	④体育祭などの学校行事や宿泊行事を、十分なコロナ感染防止対策のもと、安全に実施できるよう検討し、柔軟な姿勢で準備を整える。	生徒部	通年
	⑤2022年4月より開始する新本館等建設に関して、学校施設の利用方法や活用などを通して「新しい学校生活」を創造し、柔軟で発展的な思考力を養う。	生徒部	通年
	2. 自治向上の精神の育成		
	①修道ベーシック・ループリックをもとに、生徒の主体性を重視した生徒会活動や班活動を通して、「協働性」「向上心」を育み、何事も自分で切り開いていく「開拓者」精神を養う。	生徒部・高校教頭・教頭補佐	通年
IV. 教育力の向上	1. 人事考課の実施		
	①校長面談において確認された各教員の単年度目標の機能的展開が可能となるように「個人事業計画書」を吟味し、その計画の実現に向けて、適宜現場での人事配置、業務改善を図る。	中高両教頭・教頭補佐	通年
	②人事考課が公正に行われるよう、授業観察、教員へのヒアリング等を通して多角的なデータの収集を図る。	高校教頭	通年

主要項目	具体策	所管部署	実施月
	<p>2. 教員研修の充実</p> <p>①業務・授業の効率化とともに、学びの深化を目指し、すでに導入したアプリや機器の基本的な機能を確実に使えるよう、部長・学年主任・教科主任＋希望者を対象とし、キャッチアップ研修を行う。</p> <p>②就任3年目までの教員・教科主任・教科からさらに1人＋希望者を対象とし、年間10回を目処に「デジタル・タキソノミー」をもとにした授業デザイン研修を行い、研究授業発表会でその成果を発表する。</p> <p>③革新的且つ生徒の学習意欲を喚起する授業デザインを行い、効果的な授業は校内ネットワークで紹介し、教員の授業研修に利用する。また、課題のある授業に関しては、動画によりその課題を探求し、校長が直接当該教員と課題解決のための協議を行う。</p> <p>④大学入試研修をおこない、激変する大学入試情報を共有し、よりよい進路指導を目指す。</p>	<p>中高両教頭・教務部</p> <p>中学教頭</p> <p>中高両教頭・教頭補佐</p> <p>高校教頭・進路部長</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
V. 生徒募集の充実	<p>1. 広報活動の工夫</p> <p>①スローガンではなく、教育活動の結果を示すスタイルで外部広報活動の充実をはかる。</p> <p>②受験生のニーズに合わせた、よりこまやかな広報活動の一環として、修道ワークショップと称して小学生を対象とした班活動体験を実施する。日程を5回に分散し、多数の参加を目指す。あわせてオンラインによる進学相談等も実施する。</p> <p>③修道ベーシック・ループリックの生徒による自己評価を集計し、その結果から導き出される修道生としてのスキルや価値観の高さを外部広報活動、内部広報活動に活かす。</p> <p>④本校の教育に対する保護者の理解とロイヤリティを高めるために、1年から4年までの保護者を対象として学年別校長講演会を実施する。</p>	<p>中学教頭・広報室</p> <p>中学教頭・広報室</p> <p>中学教頭・広報室</p> <p>担当学年</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
VI. 修学支援	<p>1. 修学支援</p> <p>①修道中学校修道高等学校奨学生をはじめとして、公的機関・民間団体の行う奨学制度を周知し、支援を行っていく。</p>	<p>教頭補佐</p>	<p>通年</p>

【職員の部】

主要項目	具体策	所管部局	実施月
I. 教員事務作業の点検と改革	教員の事務作業負担の軽減を目指し、事務室が受け持つことができる業務を洗い出し、検討を加える。	事務長，総務課 【部長会】	通年
II. 新本館等の建設	2022年4月より新本館等建設の第一期工事を開始する。	財務課	通年
III. ICTを利用した授業改善の検討	オンライン授業をはじめとするICTを利用した授業、また学級運営や生徒指導における「統一的なICTシステムの利用」実現にむけて、施設整備・運用の面で教員サポート体制を強化する。	総務課	通年
IV. 寄付金制度の運用	同窓会・PTAとも連携を図り、引き続き新本館建築に向けての寄附募集を進める。 (4年計画の2年目)	事務室	通年
V. 創始300年に向けて、記念事業の計画検討	引き続き、貴重書籍・収蔵品のデジタル化を進めるとともに、法人と連携を取りつつ、学園史の編纂と記念事業のあり方を検討する。	事務室	通年

2022年度 学校法人修道学園事業計画
 <広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校>

主要項目	具体策	所管部局	実施月
I 学力の向上			
1. 学力向上の取組みの充実	①「予習⇒授業⇒復習」のサイクルを確立し、自学自習力を高められる授業内容や指示の出し方を工夫する。 ②授業を大切にするため、切り替えが素早くできる授業規律を徹底する。 ③一日の学びのスタートは朝読書にあると位置づけ、それを生徒と共に実施する。 ④授業改善に向けた分析を行うため、生徒を対象としたアンケート調査を行う。	教務部、学年会 教務部、学年会 協創教育部、学年会 教務部、学年会	通年 通年 通年 通年
2. 探究型学力（主体的学び）を目指す授業づくりの促進	①「エミット学習」（描く・観る・問う）やICTを活用した授業づくりを教員間で共有し、授業で取り入れる。 ②探究的な学びを促進する発問の仕方や課題の出し方について研究し実践する。 ③参加型授業の研究・実践を行う。	教務部 協創教育部 教務部 教務部	通年 通年 通年
II 進路指導の強化			
1. 組織的な進路指導の取組み	①「進路シラバス」の作成とそれに基づく取組みを充実させていく。 ②広島修道大学附属校推薦・総合型選抜・学校推薦型選抜対策案を企画・立案し、実施する。 ③「協創スマート予備校」など、進路希望に応じた効果的な補習体制を整える。 ④模擬試験の結果を分析し、教科指導に活かすと共に、個人面談を行い、進路実績につなげる。	進路指導部 学年会 進路指導部 進路指導部 進路指導部	4月～11月 4月～1月 通年 通年
III 自立（自律）心の育成			
1. 規範意識や倫理観の育成	①建学の精神を具現化する「み・そ・あ・じ」（身だしなみ・掃除・挨拶・時間）を合言葉にし、徹底を促す。 ②協創生として自覚すべき協創スタンダード「AIM HIGH」（高みを目指す）につながる取組みを実施する。 ③登下校の交通安全、SNSに関して等のルールやマナーの順守を徹底させる。	生徒指導部 学年会 生徒指導部 学年会 生徒指導部	通年 通年 通年
2. 学校生活の活性化	①生徒自治会を中心に生徒が企画・運営することで、文化祭、体育祭、協創コンテストなどの行事の内容の充実を図る。 ②生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。	生徒指導部 生徒指導部	通年 通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
	③限られた校内環境の中で、生徒が部活動に積極的に取り組むことで学校の活性化につながるよう取り組む。	生徒指導部	通年
IV協創教育の推進			
1. 「4つの力」(探究型学力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力) の育成	①「4つの力の育成」を評価する「協創ルーブリック」の具体的な活用法について検討し、評価を試みる。また、「教科別ルーブリック」もブラッシュアップし、協創ルーブリックとの整合を図る。	教務部	通年
2. 「探究科」授業の充実	①地域に密着した身近な課題から生徒が4つの力を意識して解決策を模索し、中高の系統性を鑑みるとともに思考の深化を図る授業に取り組む。	協創教育部	通年
3. 「G C P」(グローバル・コンピテンス・プログラム) の導入・促進	①本校教育目標を達成するための教科横断型で特色ある授業のG C Pを探究授業の中で取り組む。	協創教育部	通年
4. 国際理解教育の推進	①海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ(グローバル基礎力)を育成する。 ②広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	協創教育部 協創教育部	通年 通年
5. I C Tを活用した教育の推進	①I C Tを活用した授業づくりや協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	協創教育部	通年
V教育力の向上			
1. 教員研修の体系化及び実施	①初任者のための「バディ制度」を実施し、先輩教員から授業や校務などについて指導、助言する。 ②毎月1回水曜日の放課後を研修日とする。当日は短縮授業とし、研修年間計画に基づいて実施する。研修は、経験年数別、マネジメント、授業力向上等、多様な研修を実施する。	教務部 教務部	通年 通年
2. 公開研究授業の実施	①授業力向上を目的とした公開研究授業を実施する。	教務部	11月
3. 授業評価の実施	①日々の授業について、外部評価者や生徒による評価を行い、得られた評価と助言に基づき授業力の向上を図る。	教務部	通年
4. 評価指針の作成	①授業評価のための教科別ルーブリックをブラッシュアップし、これに基づいて評価を試みる。	教務部	通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
VI生徒募集の充実 1. 戦略的広報活動の実施	②「学校評価アンケート」(生徒、保護者、教職員)を実施し、結果を分析して具体的な改善策を提案する。	教務部	7月、2月
	①オープンスクール、地域別相談会、夜の説明会、随時見学等を軸として広報活動を実施する。	企画広報部	5月～11月
	②ウェブ(ホーム)ページ及びSNSでの発信をこれまで以上に充実させる。 ③小・中学校や塾の訪問は、事前準備を入念にすると共に、在校生の有無や親疎関係などに基づき、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。	企画広報部 企画広報部	通年 5月～11月
VII学校組織力の強化 1. 組織体制の充実	①中期事業計画に基づいた年度事業計画を策定し、校務運営の円滑化を図る。また、その振り返りを全教員で共有する。	各部	通年
	②年度事業計画に基づき、校務運営会議、教科主任会議、学年会、部会等での昨年度の評価・振り返りを踏まえた教科別等事業計画を作成する。	管理職、教務部	通年
	③スクールポリシー及び「協創の教育2022」を公表し、本校のめざす学校像を内外に発信する。	管理職、教務部	4月
	④昨年度設置した研修主任及び今年度新たに設置する中高一貫教育担当を中心に、教職員研修及び中高一貫教育の充実を図る。	教務部	通年
	2. 人事評価の実施	①適正な評価に基づいて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として策定した「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を今年度より本格的に運用し、教職員の成長を支援する。	管理職
VIII事務室の機能強化		①今年度から本格導入する「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を活用し、事務室の企画、財務面の機能強化を図る。	事務室
	②教職員の勤務管理を適切に行うとともに、健康の保持増進に努める。		
	③収支バランスの改善を図る観点から、2023年度入学生の授業料及び施設・設備資金の在り方について検討する。		
	④施設・設備中長期保全計画に基づき、計画的な施設・設備の維持管理に努める。		